



福岡県連協ニュース

福岡県学童保育連絡協議会

〒805-0067 北九州市八幡東区祇園2丁目4-22
TEL093-662-6000・FAX093-662-6006
E-mail gakuforen6000@axel.ocn.ne.jp
発行・福岡県学童保育連絡協議会



福岡県学童保育

研究集会終わる

2014年2月23日、第32回福岡県学童保育研究集会が開催されました。福岡県の30自治体から、(他県からの参加もあり)441名が参加し、大いに学び、語り合い、交流を致しました。

実行委員及び研究会会功に尽力された皆様、おつかれ様でした。今回の研究会は「子ども子育て支援法」が2015年4月に施行される前の年に開催された、大きな意味のある研究会でした。



●記念講演 下浦 忠治 氏

記念講演は、下浦忠治氏(児童相談所ソーシャルワーカー)による「子どもと子育てを支える学童保育の社会的役割」のお話でした。経済的問題から「子どもの貧困」、親子の関係性での「子どもの虐待」子どもの今おかれている現状から福祉としての学童保育で、親も子も孤立しない支援を学童保育(指導員のかかわり)が担う重要性を

福祉としての学童保育

『子ども達の明るい未来につながるためにくささえ合うつながり』が今回の研究会のテーマでした。

学びました。

特別報告では、そよかせ学童保育所のダイナミックな活動がスライドで紹介されました。

8分科会で交流を深める

午後からの分科会は8分科会とし前年より1分科会増えました。

特徴的な分科会として、

(2分科会) 子どもの食教育・食の環境を身体と心の基礎として学ぶことができました。

(3分科会) 父母会活動は学習の技法で楽しく学ぶことが出来たとの感想が、多くありました。

(4、5分科会) 「特別なニーズを持つ子ども」「気になる子どもへの理解」毎回指導員の参加者が多く、現場での指導の悩みが多いことがうかがえます。さらに保護者自身も、子どもの気になる行動への理解の問題を学びました。



●全体会

(8分科会) 「指導員間交流」は今回新しく設けた分科会で、職場でのコミュニケーションを図り、指導員同士の信頼つくりを学ぶものでした。

今回の参加者は、昨年より減少しました。この点は今後の大きな課題です。実行委員会は例年以上に議論が活発になり、助言者と共に創り、練りあげた記念講演・分科会ではなかったのではないのでしょうか。

実行委員長

松本 秀樹

研究集会記念講演・分科会感想

記念講演

『子どもと子育てを支える学童保育の社会的役割』

- ・子どもたちには、愛をいっぱい与えてもらって、親も成長していくのだなと感じました。子どもが育っていく環境って大事ですね。(保護者)
- ・意義深い講演でした。色々な面で考えさせられる内容でもあり、絆の大切さを子ども達、保護者に伝えていければと思っています(指導員)
- ・あらためて、自分の目標とする指導員像が再確認出来た。より現実的に子どもをとりまく環境が大変なものであり、そういう子どもたちのサインに気づき接していけるように日々のふりかえりをして、成長していかななくてはと思った。(指導員)
- ・子どもをどう育てていくかではなく、母親としてどう生きていくかと言う言葉がとても印象に残りました。今一度自分が母親としてどう生きていたいかをしっかりと見つめ直して、子どもに感心を持っていきたい。子どもにも回りにも「おせっかい」でいたいと思う。(保護者)
- ・せつない話に涙しました。できることをしていきたいと思います。(保護者)
- ・学童は、今の社会にとって、役割が大きく幅広くなっていると改めて実感しました。自分の学童でも子どもの貧困は実感します。うなずきながら、聞くことができました。(指導員)
- ・現代の子どもたちの抱える生活背景は本当に深刻になっていると思います。実態を生々しく聴くことができました。「自分のこととしてとらえて」という、下浦先生がくりかえし言っていたことが印象的でした。(指導員)
- ・私はまだ今年1月に指導員になったばかりです。私たちがどうあるべきかを考えさせられ、ヒントをくださいました。子どもたちが安心してくることができる学童保育所という場を作っていくのが、わたしたちの仕事だと改めて感じました。(指導員)

第1分科会

『働きながらの子育ての現状。父親も母親も人間らしく働きながら子そだてしていくには』

- ・働きながらの子育ては、大変と思うことがありますが、学校や学童との関わりや支えで少しですが、心に余裕を持っています。今後も子どもとも言葉のキャッチボール、大人同士も声をかけあう大切さを大事にしていこうと思う。(保護者)
- ・指導員の一人として働きながら子育てをしている保護者の方に対してどのように接すると良いのか、生の保護者の声を聴くことができ、大変勉強になりました。(指導員)
- ・グループ討議では父母の立場、指導員の立場として話を聞くことができ、お互いの思いを知ってよかった。積極的にできなかった父母会でしたが、考え方が変えられそうです。(保護者)

第2分科会

『幼児期・学童期の子どもたちの食は、身体と心の基礎を作る時代』

- ・長い調理師経験からのお話だけに、とてもわかりやすく愛情たっぷり感動いたしました。自分の体は自分で守る、その為には何を食べれば良いのか、考えることが出来ること、自分で作るようになることが大切と教えていただき、やはり学童での調理体験はつづけていこうと思っています。
- ・ファーストフードが、いろんなところで簡単に食べることができる現在、けっしてお金をかけなくても、自分の手で作る料理の大切さを学びました。私自身も祖母から母そして私、子どもたちへと食を通して、胃袋を満たすだけでなく心(思いやり)を満たすということに繋がるものだと思います。
- ・学童では長期休暇の時間ぐらいいいか、手作りおやつを出すことはありませんが、おやつ献立を考える時に参考になりました。できるだけひらがなのおやつや、ごま、大豆、にぼしなど取り入れたい。



第3分科会

『今なぜ父母会活動？親同士のつながり』

・保護者にとって
もう一度考える機会
が持ててよかった。
理想の学童に向けて！
(保護者)



・NPO法人になった後の保護者会の状況を教えて
もらうことができ、とてもよかった。(行政)
・保護者、指導員、行政の方がまざって、生き生き
と意見交換ができ良かった。(指導員)
・定例会を魅力的なものにしたいと思い参加、会
の進行の仕方がとてもヒントになりました。
(指導員)

第4分科会

『学童保育の集団づくりについて』

・実践報告参考になりました。グループ交流は時間
が足りなかったが、アドバイスなど出し合い良
かった。指導員同士協力、連携が大切だとい
うこと、思いを聴いてくれる、そう思ってもらえる指
導員を目標にいけたらと思います。
・準備段階から取り組んできて、上野学童の方
のご苦勞を自分達の学童と共有できた時間となり
ました。日々の振り返り、実践検討を重ねることで、
子どもたちの生活を少しでも楽しいものにできる
よう今後も頑張っていきます。(指導員)

第5分科会

『気になる子どもへの理解と支援』

・なぜ子どもが暴言や暴力などの問題行動を起
こすのか、行動には必ず原因があってそういった子
たちを理解するために感情に耳を傾け、引き出す
関係をつくることの大切さを学んだ。本当は援助
して欲しいと願っていることを忘れずに子ども
たちと関わっていききたい。
・気になる行動を減少、抑制させるための様々
な方法や知識を学ぶことができ、大変勉強にな
った。
・子どもが悪いことをしたら必ずと言っていい
ほど叱っていましたが、それではいけないとい
う事、認める、褒める事を一番に考えて問題
行動を減していくことが大事だと気付く事
ができた。

第6分科会

『市町村の学童保育施策のあり方を考える』

・国の制度が変わっていくことを、保護者や行政
又指導員に伝えていかななくてはならず、責任
を感じます。(その他)
・指導員の仕事の大切さを考えた改善法である。
私達も政策に負けないような保育をしなければ
ならないのではないのでしょうか。(指導員)
・国が条例制定するまでになったことは感慨深
いものがありますが、市、議会がどこまで学
童保育のことに真剣に向き合い、議論してく
れるか、しっかり見守っていききたい。(その他)

第7分科会

『遊びながら学びあう子どもたち

～生きる力へ～』

・遊びって不思議です。自分の
持てる力を精一杯使って
チャレンジするから、終わ
った後気持ちがよい。子ども
達もこの感覚をあげたら一
緒に共感でき、みんな分
かり合える。(指導員)
・遊びながら学ぶことは、塾
や習い事に負けない力を持
っていると私も感じました。
(指導員)
・懐かしい遊びを久しぶりに
試してみても、自分の子
どもはこんな遊びしてない
だろうと感じました。遊
びを通していろんな力をつ
けることができる事が分
かりました。体験させて
あげたいと思いました。
(保護者)



第8分科会

『指導員間交流』

・今回新しい分科会と
いうことで参加したが
自身の学童の指導員同
士で会話ができないので、
久しぶりに学童について
話し合う有意義な時間
になった。
・指導員間のコミュニケーションの
分会をたくさん研修し勉
強していきたい。時間
が足りずまだまだ話
を聞きたかった。
・指導員とはどうあるべき
かを再認識することが
出来た。



市町村と共に、子どもの最善の利益が保証される、条例策定を！！

市町村による学童保育条例策定に向けて国からの省令が遅れているため、市町村は困っている状況です。そして、国はここにきて、厚労省の施策〔学童保育（放課後児童クラブ）〕と文科省の施策〔放課後子ども教室〕とを一体化していくという方向性を打ち出してきて、とても心配な状況となってきています。

今まで働きかけ、共に考え合い検討し合ってきた市町村の担当課長や担当者が4月1日付で移動になり、新たに理解を求め働きかけなければならない状況になっている地域もあります。

今回の運営委員会

で確認 しかったことは、

- ◎「学童保育(放課後児童クラブ)と放課後子ども教室の一体化はできない」ことをしっかり伝える。
- ◎条例制定は、子どもの最善の利益が保証され、学童保育の役割が子どもたちにとって安心安全な生活の場となること、そして子ども一人一人を支援する学童保育指導員の質の向上と処遇改善が整備されることが大事です。学童保育関係者は省令の中身を確認ししっかりと読み解き、条例を策定する主体者である市町村に対し、共に策定するという姿勢で丁寧に説明し働きかけること。
- ◎市町村議員にも働きかけ、理解を求めましょう。
- ◎パブリックコメントに自分たちの意見を述べましょう。

お知らせ



学習会のご案内

最新情報！

『市町村学童保育条例策定 ～国の省令を受けて学童保育 はどうかかわるのか』

国の「子ども・子育て支援法」の2015年4月施行に向けて、厚労省が発令した省令の内容を踏まえ、全国学童保育連絡協議会事務局次長(真田 祐)より、最新情報をお話し致します。

- 日時：2014年4月19日(土)
13:30～15:30(受付13:00～)
- 場所：春日市クローバープラザ 西棟501
- 参加費：加盟クラブ(個人) 無料
非加盟クラブ(個人) 500円
(会場代、資料代として)

月刊「日本の学童ほいく」を
読んで、語って、
いっぱい広めよう！！

【4月号からの新連載】

◎講座

学びあい、育ちあう関係へ

……小淵隆司(北海道教育大学)

【好評連載】

◎身近に観察・昆虫の姿

……清水聡司

◎知っておきたい暮らしの知識

……角村浩

スケジュール

- 4/13日 第7回役員会
- 4/19土 最新 真田学習会 13:30～15:30 春日クローバープラザ
- 5/10～11土日 全国研究大会岩手
- 5/18日 AM 第8回役員会
PM 第4回運営委員会
- 6/1日 新人研修(春日クローバープラザ)
- 6/15日 第35回県連総会(大野城まどかぴあ)